

第 7 章 黃砂實態把握調查結果

第7章 黄砂実態把握調査結果

黄砂は中国大陸内陸部のタクラマカン砂漠、ゴビ砂漠や黄土高原など乾燥・半乾燥地域で、風によって数千メートルの高度にまで巻き上げられた土壌・鉱物粒子が偏西風に乗って日本に飛来し、大気中に浮遊あるいは降下する現象であり、日本全国で観測された黄砂の延べ日数は、2000年から2002年にピークを迎えた後やや減少し、2010年に再び高い値が見られるなど年々の変動が大きくなっている。

従来、自然現象であると理解されてきたが、急速に広がりつつある過放牧や農地転換による土地の劣化等との関連も指摘されている。また、黄砂にばく露することによって、呼吸器疾患や循環器疾患等、人への健康に影響があることが近年報告されてきており、黄砂の環境影響への関心が高まっている。

しかしながら、黄砂の物質循環に関連する影響は、科学的に明らかでない部分が多いことから、黄砂飛来時における浮遊粉じん量とそこに含まれるイオン成分の分析を行い、本県における黄砂の実態を把握することを目的として黄砂実態把握調査を行った。

1 黄砂飛来状況

令和2年度における金沢地方気象台に確認した黄砂飛来日は、下記のとおり5日間であった。

令和2年5月13日（1日間）

令和3年3月17日（1日間）

3月29～31日（3日間）

これまでの金沢地方気象台による黄砂観測日数は表7-1のとおりである。

表7-1 金沢地方気象台による黄砂観測日数

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
観測日	2日	7日	5日	6日	0日	7日	2日	6日	2日	1日	2日	(5日)

注)金沢地方気象台による黄砂観測は令和2年2月3日に目視観測の自動化に伴い終了している。

ただし黄砂が飛来しているかどうかの判断は金沢地方気象台で行っており、令和2年2月3日以降は金沢地方気象台に確認をした黄砂飛来日数を括弧書きで記載している。

2 調査地点及び調査期間

(1) 調査地点

石川県保健環境センター庁舎屋上（金沢市太陽が丘）

(2) 調査期間

本調査は、表7-2のとおり黄砂飛来日と非黄砂飛来日に区分し実施した。

表7-2 調査期間

年 月	黄砂飛来日	非黄砂飛来日
令和2年 5月	5月12日～13日	5月14日～15日
	5月13日～14日	5月15日～16日
令和3年 3月	3月16日～17日	なし
	3月17日～18日	
	3月29日～30日	
	3月30日～31日	
	3月31日～4月1日	
計	7回	2回

3 調査方法

(1) 浮遊粉じん調査

ハイボリウムエアサンプラーを用いて浮遊粉じんを24時間連続採取し、粉じん量及びイオン成分濃度を測定した。

(2) 2段型粒径別浮遊粉じん調査

2段型ローボリウムエアサンプラーを用いて、浮遊粉じんを粗大粒子と微小粒子の2段階に分級(分離粒径は2.5μm)して24時間連続採取し、粒径別に粉じん量及びイオン成分濃度を測定した。

4 調査結果

(1) 浮遊粉じん調査結果

浮遊粉じん濃度については、表7-3及び図7-1のとおり、黄砂飛来日における浮遊粉じん濃度の平均値は101μg/m³で過去10年間の非黄砂飛来日の平均値45μg/m³の約2.2倍であった。過去10年間の黄砂飛来日における濃度範囲は11～311μg/m³であり、この変動範囲内の値であった。

イオン成分については、黄砂飛来日は非黄砂飛来日に比べ、どの成分も高い傾向にあった。また、塩化物イオン及びナトリウムイオンは3月16日～17日に高く、硫酸イオン、硝酸イオン、アンモニウムイオン及びカルシウムイオンは3月29日～30日に高かった。(図7-2)。

表7-3 浮遊粉じんの調査結果

No	採取開始日時		採取終了日時		吸引量 (20℃ 1013hPa) (m ³)	粉じん濃度 (μg/m ³)	陰イオン			陽イオン					nss-SO ₄ ²⁻ (μg/m ³)	黄砂飛来
	開始	終了	開始	終了			SO ₄ ²⁻ (μg/m ³)	NO ₃ ⁻ (μg/m ³)	Cl ⁻ (μg/m ³)	NH ₄ ⁺ (μg/m ³)	Ca ²⁺ (μg/m ³)	Mg ²⁺ (μg/m ³)	K ⁺ (μg/m ³)	Na ⁺ (μg/m ³)		
1	R2/5/12	11:00	R2/5/13	11:00	1,440	24	1.43	1.16	0.43	0.35	0.38	0.08	0.07	0.47	1.31	◎
2	R2/5/13	11:00	R2/5/14	11:00	1,469	33	1.37	1.35	1.04	0.14	0.48	0.16	0.09	1.15	1.08	◎
3	R2/5/14	11:00	R2/5/15	11:00	1,458	8	0.26	0.27	0.02	0.07	0.09	0.02	0.02	0.07	0.24	
4	R2/5/15	11:00	R2/5/16	11:00	1,450	6	0.21	0.11	0.01	0.06	0.05	0.01	0.02	0.02	0.21	
5	R3/3/16	15:00	R3/3/17	15:00	1,506	92	4.25	2.79	4.91	0.76	1.49	0.49	0.29	3.39	3.40	◎
6	R3/3/17	15:00	R3/3/18	15:00	1,473	48	2.41	1.23	2.74	0.30	0.72	0.29	0.20	2.09	1.89	◎
7	R3/3/29	13:00	R3/3/30	13:00	1,406	266	12.8	16.0	3.75	4.03	5.09	0.83	0.68	3.03	12.0	◎
8	R3/3/30	13:00	R3/3/31	13:00	1,428	186	4.84	6.71	2.15	1.28	2.50	0.45	0.39	1.76	4.40	◎
9	R3/3/31	13:00	R3/4/1	13:00	1,434	59	1.79	2.07	0.39	0.76	1.00	0.11	0.18	0.30	1.72	◎
平均値					1,452	80	3.26	3.52	1.71	0.86	1.31	0.27	0.22	1.36	2.92	
黄砂飛来日平均値						101	4.12	4.47	2.20	1.09	1.67	0.35	0.27	1.74	3.68	
非黄砂飛来日平均値						7	0.24	0.19	0.01	0.06	0.07	0.01	0.02	0.04	0.23	

注) 黄砂飛来欄の◎印は、採取期間中金沢地方気象台で黄砂が観測された日を含むことを示す。
非海塩由来硫酸イオン(nss(non sea salt)-SO₄²⁻)とは、海塩由来のSO₄²⁻を除いたSO₄²⁻濃度を示す。

表 7-4 過去 10 年間の浮遊粉じんの平均値の推移

黄砂飛来日

年度	粉じん濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	陰イオン			陽イオン					nss-SO ₄ ²⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	サンプリング 回数
		SO ₄ ²⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NO ₃ ⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Cl ⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NH ₄ ⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Ca ²⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Mg ²⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	K ⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Na ⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)		
22	112	25.9	1.02	0.01	7.74	1.99	0.45	0.76	0.85	25.7	2
23	311	7.67	7.36	2.94	0.86	4.76	0.62	0.58	2.72	6.99	4
24	82	9.46	3.19	3.42	2.09	1.36	0.41	0.46	2.83	8.75	6
25											0
26	94	12.0	3.45	0.92	2.74	2.53	0.38	0.59	1.17	11.7	8
27	111	2.88	2.74	1.62	0.67	1.68	0.27	0.30	1.35	2.54	2
28	110	7.13	3.66	0.50	1.39	1.70	0.32	0.41	1.28	6.81	6
29	171	6.04	5.40	1.22	0.46	3.65	0.47	0.40	1.89	5.57	2
30	11	0.20	0.31	0.03	0.06	0.22	0.03	0.01	0.05	0.19	1
R1	57	2.34	2.31	0.52	0.44	0.84	0.15	0.14	0.65	2.18	2
平均値	118	8.18	3.27	1.24	1.83	2.08	0.34	0.41	1.42	7.82	3.3

非黄砂飛来日

年度	粉じん濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	陰イオン			陽イオン					nss-SO ₄ ²⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	サンプリング 回数
		SO ₄ ²⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NO ₃ ⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Cl ⁻ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NH ₄ ⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Ca ²⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Mg ²⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	K ⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Na ⁺ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)		
22	85	9.31	4.06	3.87	1.96	1.05	0.43	0.47	3.14	8.52	6
23	60	8.82	2.55	0.22	1.77	1.06	0.23	0.35	1.01	8.57	6
24	52	11.3	0.70	0.01	2.84	0.86	0.18	0.41	0.74	11.1	4
25	45	12.6	2.96	1.72	3.32	0.70	0.37	0.56	2.72	11.9	3
26	51	7.63	1.27	0.32	1.98	0.86	0.18	0.35	0.64	7.47	6
27											0
28	41	3.38	1.95	0.10	0.57	0.76	0.15	0.24	0.76	3.19	1
29	41	3.38	1.36	2.62	0.00	0.72	0.39	0.20	2.98	2.63	1
30	20	0.43	0.46	0.02	0.12	0.25	0.03	0.04	0.07	0.41	3
R1	10	0.37	0.33	0.89	0.00	0.10	0.08	0.04	0.69	0.20	1
平均値	45	6.36	1.74	1.09	1.40	0.71	0.23	0.30	1.42	6.00	3.1

注) 平成 25 年度は黄砂飛来日が 0 日であった。
平成 27 年度は非黄砂飛来日にサンプリングを行った日が 0 日であった。

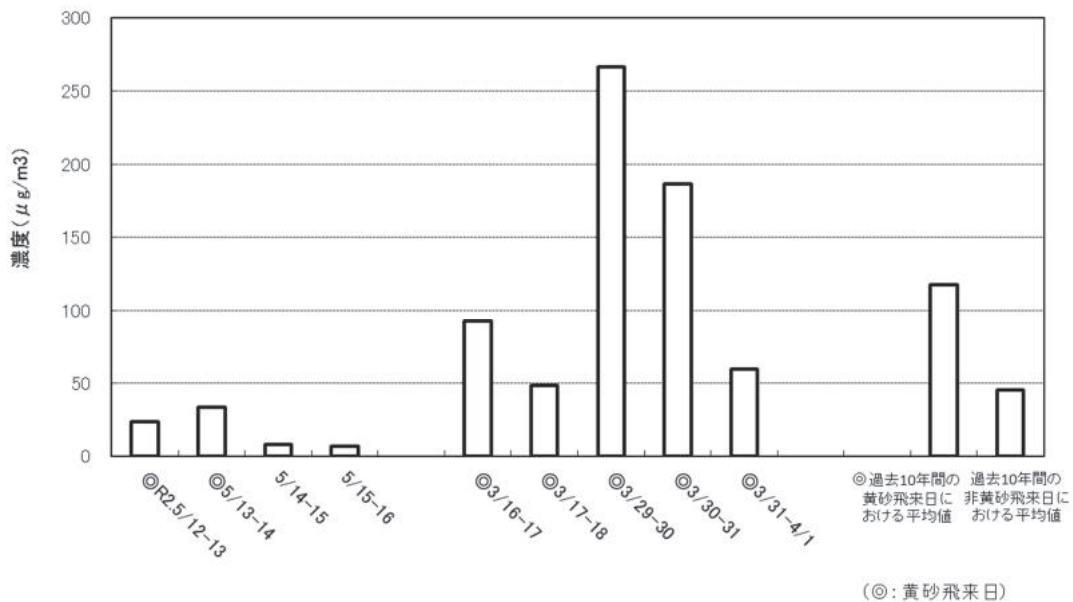


図 7-1 調査日における浮遊粉じん濃度

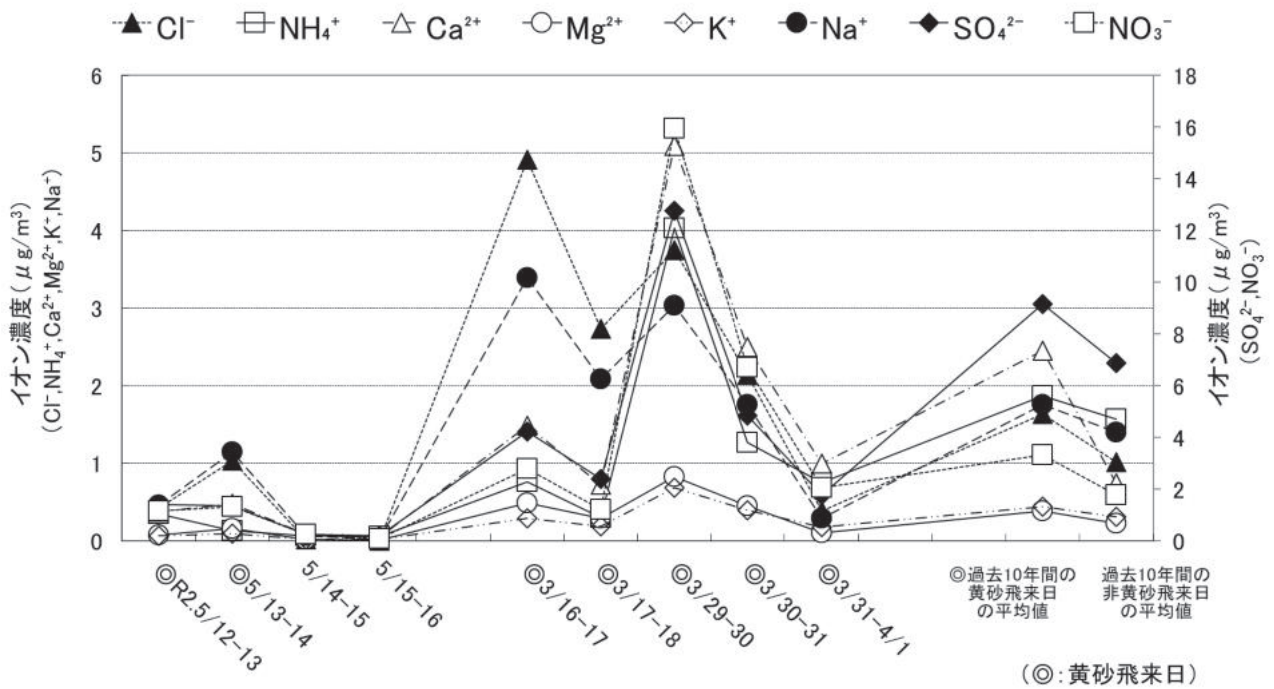


図7-2 浮遊粉じん中の各イオン成分

(2) 2段型粒径別浮遊粉じん調査

粒径別の浮遊粉じん濃度については、図7-3のとおり、黄砂飛来日のうち3月31日～4月1日以外は粗大粒子側（粒径 $2.5\mu\text{m}$ 超）のほうが微小粒子側（粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下）よりも高かった。

なお、過去10年間の黄砂飛来日における平均値は微小粒子側が $43\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、粗大粒子側が $45\mu\text{g}/\text{m}^3$ で粒径による差は確認されていない。

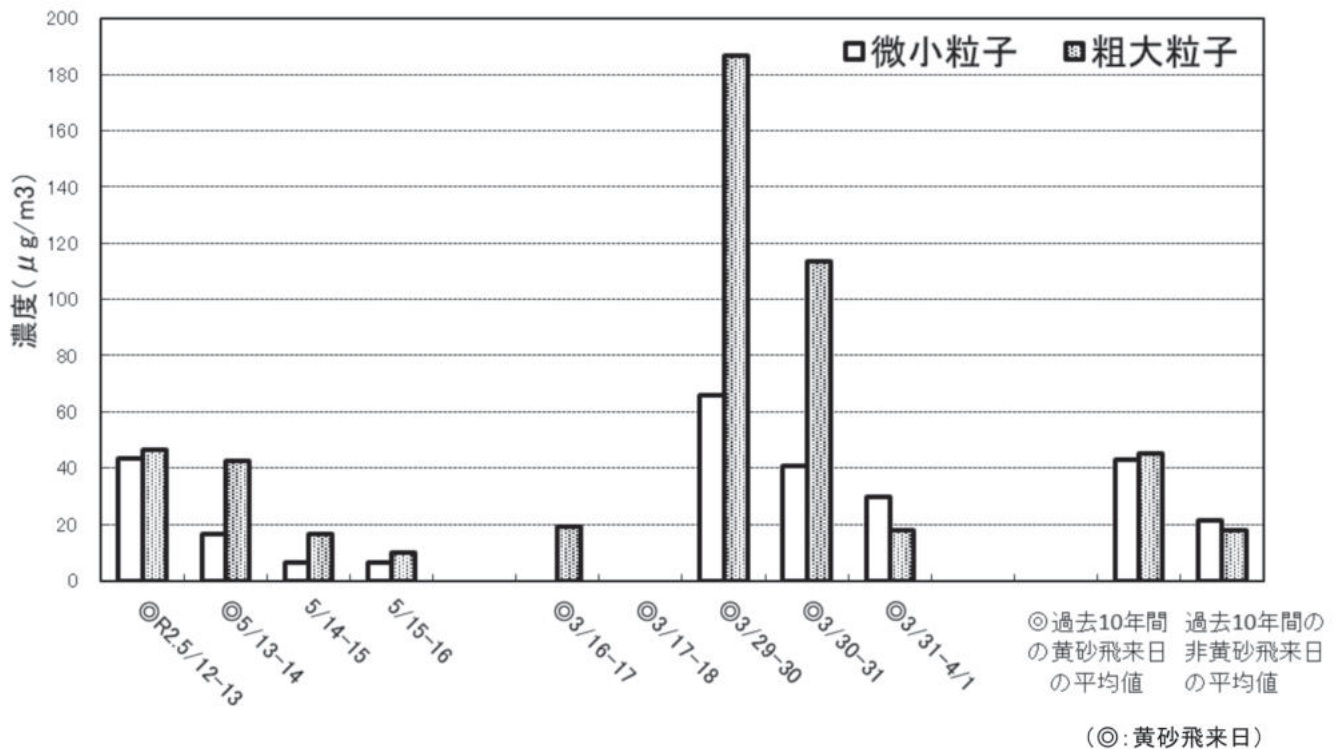


図7-3 粒径別浮遊粉じん濃度

粉じん濃度は、微小粒子側（粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下）が表 7-5 のとおり、黄砂飛来日の平均値は $39\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。また、粗大粒子側（粒径 $2.5\mu\text{m}$ 超）は、表 7-6 のとおり、黄砂飛来日の平均値は $71\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。過去 10 年間の黄砂飛来日における濃度範囲は微小粒子側が $22\sim 89\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、粗大粒子側が $21\sim 94\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、微小粒子側、粗大粒子側ともに変動の範囲内であった。

イオン成分については、図 7-4 のとおり、微小粒子側の濃度が高い傾向がみられたものは、硫酸イオン及びアンモニウムイオンで、粗大粒子側の濃度が高い傾向がみられたものは、硝酸イオン、塩化物イオン、カルシウムイオン、マグネシウムイオン及びナトリウムイオンであり、過去 10 年間と同様の傾向であった。カリウムイオンは、微小粒子側と粗大粒子側のどちらが高いとはいえなかった。

表 7-5 2 段階粒径別の調査結果（微小粒子側 粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下）

黄砂飛来日

No	採取開始日時		採取終了日時		吸引量 (20°C 1013hPa) (m^3)	粉じん濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	陰イオン			陽イオン					nss-SO_4^{2-} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
							SO_4^{2-} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NO_3^- ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Cl^- ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NH_4^+ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Ca^{2+} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Mg^{2+} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	K^+ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Na^+ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	
1	R2/5/12	11:00	R2/5/13	11:00	30.1	43	4.22	0.75	0.08	1.40	0.23	0.05	0.09	0.28	4.15
2	R2/5/13	11:00	R2/5/14	11:00	30.5	16	1.39	0.50	0.06	0.42	0.15	0.04	0.05	0.23	1.33
3	R3/3/16	15:00	R3/3/17	15:00	32.5	-	2.86	0.74	0.31	0.81	0.39	0.09	0.11	0.42	2.76
4	R3/3/17	15:00	R3/3/18	15:00	33.3	-	1.82	0.50	0.16	0.48	0.18	0.06	0.10	0.30	1.74
5	R3/3/29	13:00	R3/3/30	13:00	31.5	66	9.21	2.97	0.19	3.39	0.89	0.16	0.31	0.45	9.10
6	R3/3/30	13:00	R3/3/31	13:00	32.2	41	3.44	1.49	0.18	1.08	0.58	0.12	0.19	0.35	3.35
7	R3/3/31	13:00	R3/4/1	13:00	32.4	30	1.34	0.83	0.08	0.55	0.36	0.04	0.13	0.10	1.32
平均値						39	3.47	1.11	0.15	1.16	0.40	0.08	0.14	0.30	3.39
過去10年間の黄砂飛来日の平均値						43	6.54	0.97	0.17	1.98	0.57	0.11	0.27	0.34	6.45

注) 採取後の秤量値からブランクを差し引いた際、値が負となった粉じん濃度については「-」とした。

非黄砂飛来日

No	採取開始日時		採取終了日時		吸引量 (20°C 1013hPa) (m^3)	粉じん濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	陰イオン			陽イオン					nss-SO_4^{2-} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
							SO_4^{2-} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NO_3^- ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Cl^- ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	NH_4^+ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Ca^{2+} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Mg^{2+} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	K^+ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	Na^+ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	
1	R2/5/14	11:00	R2/5/15	11:00	30.4	7	1.66	0.30	0.02	0.56	0.17	0.03	0.05	0.12	1.63
2	R2/5/15	11:00	R2/5/16	11:00	30.4	7	1.45	0.16	0.02	0.48	0.11	0.02	0.06	0.08	1.43
平均値						7	1.56	0.23	0.02	0.52	0.14	0.03	0.05	0.10	1.53
過去10年間の非黄砂飛来日の平均値						22	5.04	0.53	0.08	1.69	0.18	0.05	0.19	0.21	4.99

表 7-6 2段階粒径別の調査結果（粗大粒子側 粒径 2.5 μ m 超）

黄砂飛来日

No	採取開始日時		採取終了日時		吸引量 (20°C 1013hPa) (m^3)	粉じん濃度 ($\mu g/m^3$)	陰イオン			陽イオン					$nss-SO_4^{2-}$ ($\mu g/m^3$)
							SO_4^{2-} ($\mu g/m^3$)	NO_3^- ($\mu g/m^3$)	Cl^- ($\mu g/m^3$)	NH_4^+ ($\mu g/m^3$)	Ca^{2+} ($\mu g/m^3$)	Mg^{2+} ($\mu g/m^3$)	K^+ ($\mu g/m^3$)	Na^+ ($\mu g/m^3$)	
1	R2/5/12	11:00	R2/5/13	11:00	30.1	47	0.75	2.90	1.49	0.15	0.65	0.19	0.07	1.28	0.43
2	R2/5/13	11:00	R2/5/14	11:00	30.5	43	0.46	1.23	1.68	0.02	0.28	0.16	0.05	1.22	0.15
3	R3/3/16	15:00	R3/3/17	15:00	32.5	19	1.16	1.59	3.17	0.15	0.80	0.33	0.13	1.96	0.67
4	R3/3/17	15:00	R3/3/18	15:00	33.3	-	0.75	0.82	2.91	0.05	0.46	0.25	0.10	1.75	0.31
5	R3/3/29	13:00	R3/3/30	13:00	31.5	187	2.29	10.0	2.97	0.95	3.26	0.47	0.28	2.13	1.75
6	R3/3/30	13:00	R3/3/31	13:00	32.2	113	1.19	4.01	1.81	0.28	1.52	0.28	0.18	1.27	0.88
7	R3/3/31	13:00	R3/4/1	13:00	32.4	18	0.23	0.96	0.26	0.10	0.45	0.06	0.04	0.17	0.19
平均値						71	0.98	3.07	2.04	0.24	1.06	0.25	0.12	1.40	0.63
過去10年間の黄砂飛来日の平均値						45	1.12	2.66	1.34	0.11	1.22	0.19	0.09	0.93	0.88

注) 採取後の秤量値からブランクを差し引いた際、値が負となった粉じん濃度については「-」とした。

非黄砂飛来日

No	採取開始日時		採取終了日時		吸引量 (20°C 1013hPa) (m^3)	粉じん濃度 ($\mu g/m^3$)	陰イオン			陽イオン					$nss-SO_4^{2-}$ ($\mu g/m^3$)
							SO_4^{2-} ($\mu g/m^3$)	NO_3^- ($\mu g/m^3$)	Cl^- ($\mu g/m^3$)	NH_4^+ ($\mu g/m^3$)	Ca^{2+} ($\mu g/m^3$)	Mg^{2+} ($\mu g/m^3$)	K^+ ($\mu g/m^3$)	Na^+ ($\mu g/m^3$)	
1	R2/5/14	11:00	R2/5/15	11:00	30.4	16	0.23	1.25	0.27	0.01	0.25	0.07	0.02	0.37	0.13
2	R2/5/15	11:00	R2/5/16	11:00	30.4	10	0.16	0.49	0.07	0.01	0.15	0.03	0.02	0.11	0.13
平均値						13	0.19	0.87	0.17	0.01	0.20	0.05	0.02	0.24	0.13
過去10年間の非黄砂飛来日の平均値						18	0.60	1.49	0.99	0.08	0.48	0.13	0.05	0.78	0.40

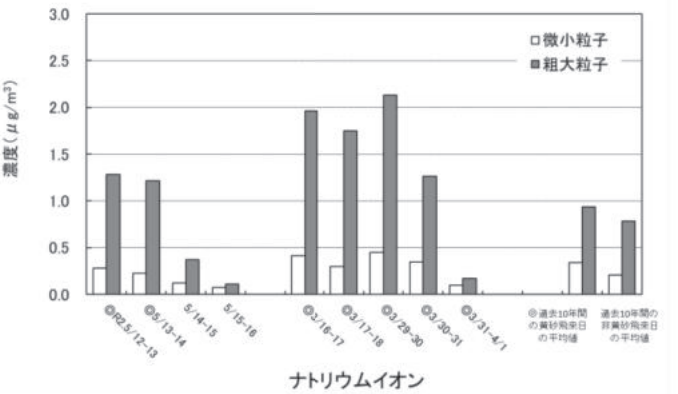
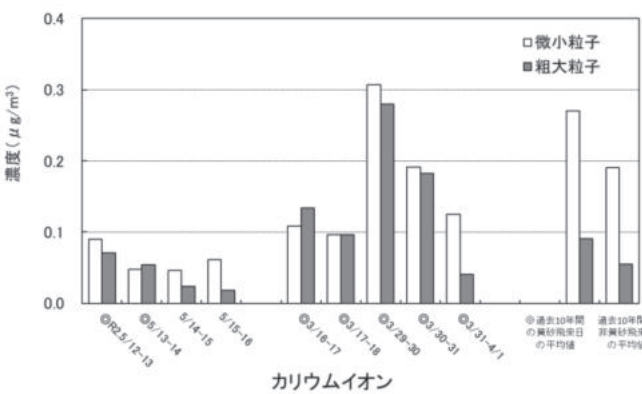
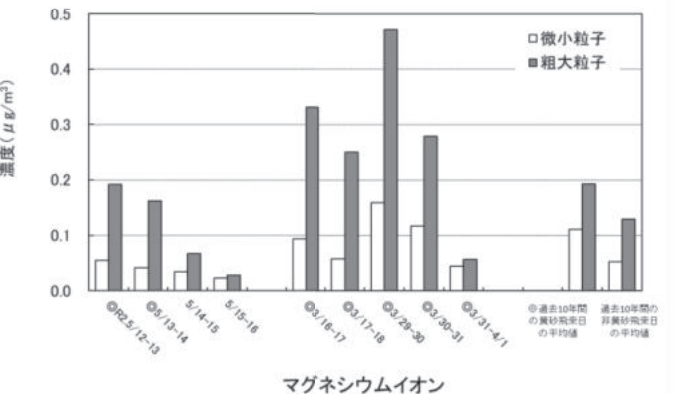
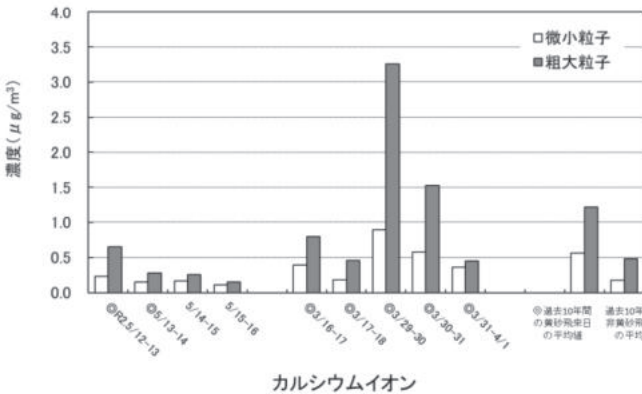
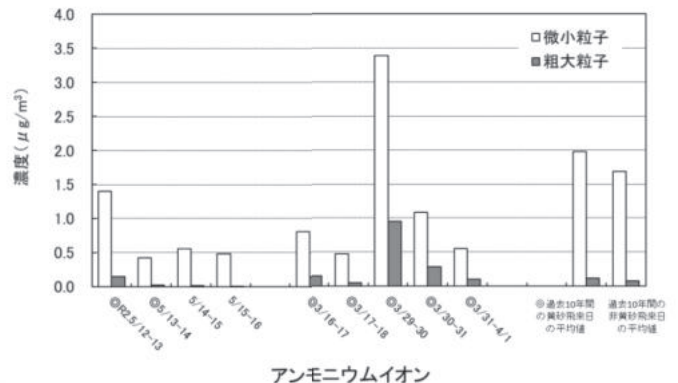
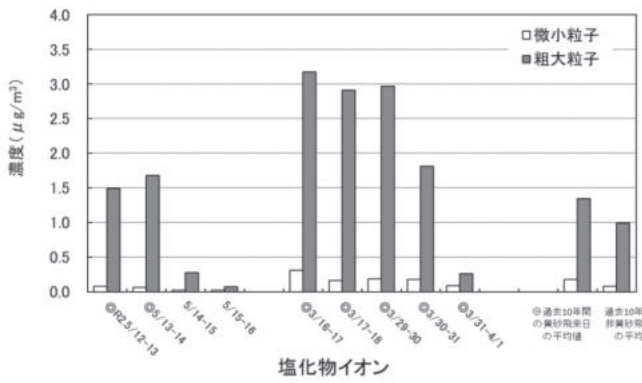
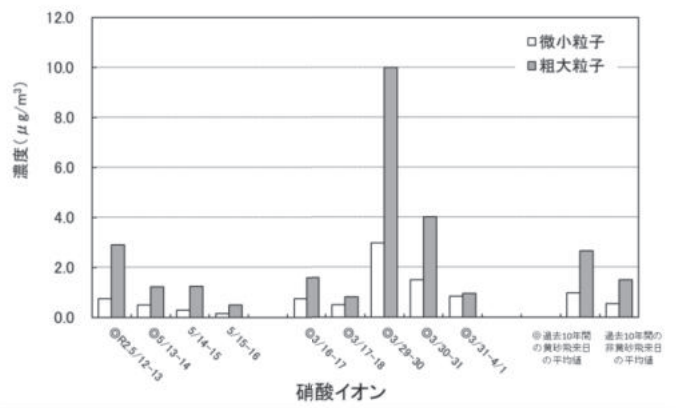
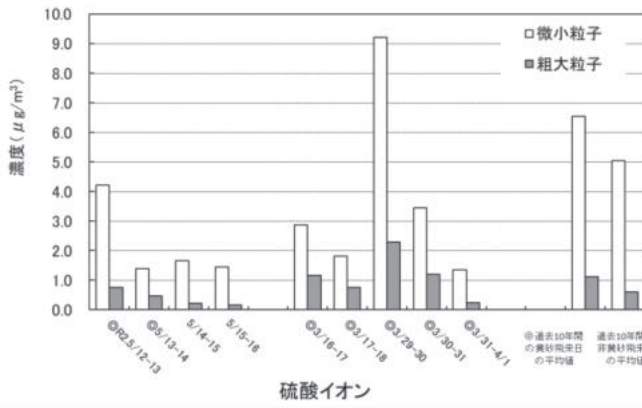


図7-4 粒径別イオン濃度

(◎:黄砂飛来日)